

以別紙得御意候、然者今ノ昼景山源左衛門
於御館銘々江被申談候者大谷九右衛門上納
之儀去冬已來之事ニ有之候處、今以埒明
不申度々銘々迄催促申候得共差別候付
不申段甚不相濟事ニ有之候、本人九右衛門
弥不埒候ハ、かゝる時分之為ニ候間請人共江
急度被仰付御取立も可成儀与奉存候
若又請人共手ニ茂余り候ハ、九右衛門家藏
ニも御手を被懸、勿論持船等も御取上
彼やは取合させ候而も上納相濟し不申候
而者外々江押移り御役所御作法相立
不申候間、此段各方迄申談し何分急々
筋付候様取計可申旨内談之事ニ候、尤
九右衛門持船此節雲州三保ノ関江戻り居申
候處、同所出張役人より内々申通し候者右船
雲州灘近く乗入候与哉讒ニも相聞江候へハ
若々九右衛門より相對ニ而船外々江取放し候様之
儀共有之候ハ、弥以御手笞相違致し候間
決而可有之事ニハ無之候得共、此節米子表
御当家様御役人より無油断心を附可然と
申候、惣而此儀ニ付去冬已來度々銘々迄
催促申節其度毎ニ上納之儀者被仰渡事ニ
可有御座候得とも九右衛門甚口乱し居申様早々
相聞候得者御懸ケ声而已ニハ下ノ氣ゆるミ中々
以急ニ上納相済し候様之事ニ而ハ不被存候、然ル
上ハ最早九右衛門身上ニ御手を被懸御取立被成
候様ニ無御座而ハ差別付ケ申間敷ニ存候付
此旨及御談ニ候由被申候右ニ付銘々より申候者委細
致承知候、九右衛門上納及延引候儀苦々敷事ニ
有之候、其旨早速米子表へ申遣し急度申渡し
候様ニ可致候、扱又根元右御米積船之儀九右衛門より
発願之節具成候儀銘々不存候本人九右衛門より
其御役所へ御直ニ相願押借米等之事も
御極メ被遣候由、依之右九右衛門儀慥成ルものニ有之
候哉之銘々手前へ御文通ニ付成程於米子ハ

家柄久敷隨分慥成ルものニ有之段ハ及御答

候得とも拝借次第等之儀ハ祥ニ承り不申候、去

冬已來及延引候由ニ而毎度御催促之預

御文通候節も其度々ニ早速其段申付候儀ニ

有之候、何分此度被仰聞候趣を以猶又稠

敷申付、其上ニも不埒ニ候ハ、請人共江申渡さセ

右船之取集メ并九右衛門家藏等之取調等も

申附候様ニ米子表ヘ懸ケ渡り可申候、其上ニ而様子

相知れ候ハ、早速御左右可申ニ付先ツハ左様ニ

承知被呉候様ニ申置候間、各御申談之上九右衛門ヘ

申渡し之儀御考慮可被成候、將又今朝之飛脚

帰便ニ九右衛門願之品致し替相願候ハ、模様ニ

より又申談候方も可有之哉と相認メ申候ヘ共

其後景山より右之談し候ニ而相考候ヘハ中々

以此節如何様之願ニも景山手江懸合之可

相成時節ニ而ハ無之候間いつれ之道ニも先ツ

上納之一段を差別付候而其上之願ニ而無之

而ハ決ニ取あへ不申様子勿論此御方

御役人より之口出しハ相成り不申次第ニ有之候、何

とも氣毒成ルものニ存候ヘ共右之趣ニ候間、今朝之

書状之意本人江申渡し候儀者先々御見合

被成何分上納一段たとへ皆々行届キ不申

とも成りたけ差出し不申ニ而ハ此表之様子

甚六ヶ敷相聞ヘ申候此上相延□候ニ而御月番

杯より表向被仰遣候様ニ有之候ニ而者甚以

御心配之儀ニ御座候間、此所幾重も御考慮

御取計可被成候、右之趣先ツ内分ニ而如斯

御座候、以上

七月十一日